

長期戦略:テーマ 「神戸三田キャンパス(KSC)の競争力強化 (キャンパス全体の環境整備)」

提出日 2021年 8月 24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	副学長 加藤 知 (KSC 事務室)	実施計画の 担当部署	KSC 戦略推進本部
-----------------------	-----------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
7-(2)-② スノーピークとの連携に基づく新たな教育的価値の創造	2020 年度	2022 年度	必要なし	不要
<p>内容</p> <p>2020年6月17日“Mastery for Service”をスクールモットーとする本学と『人間性の回復』を社会的使命とするスノーピークとの間で包括連携協定を締結した。本協定に基づき、①キャンプの要素を取り入れた新しい学びの場「Camping Campus」の創造、②SDGs の推進による社会貢献、に取り組むことで新たな教育的価値を創造するとともに KSC の競争力強化に貢献する。</p> <p>本取り組みにおいては、KSC の有志の学生で組織する「CAMP×US(キャンパス)」のメンバーを中心に、学生と教職員が協働で計画を推進する。「CAMP×US」とは、KSC が大好きな学生たちが、自分たちの学びの場の明日(あす)を創造するために集まった有志のグループである。今後の KSC のブランドや価値そのものを「CAMP×US」のメンバーを中心につくり上げていくことになることから、同名称について商標登録出願し、権利取得を行う。</p> <p>本計画の大きな柱となる「Camping Campus」で、学部や学年の壁、大学と社会との壁、人間社会と自然の壁、教室という場所的制約、授業時間という時間的制約など、ありとあらゆるものをボーダーレス化し、新しい学びの時間と空間の提供を試み、スノーピークと連携して、大学キャンパスという日常と、キャンプのテントや、焚火といった非日常を融合させて、内発的な自由な発想で innovation を起こすことができる学生を育てることを目指す。さらに、これらの空間や場を効果的に活用できる学びのプログラムや企業とのコラボレーションによるハッカソン、アイデアソンなどを開発・展開する。</p> <p>また、本学が推進する SDGs の取り組みにおいて、「CAMP×US」のメンバーとスノーピークで開発プロジェクトチームを結成し、サイズや素材、デザインや価格帯を意見交換しながらオリジナル・マイボトルを共同開発し、KSC の学生および教職員への配布・販売により、「マイボトルを持参することが当然」という風土を醸成する。</p> <p>導入後の意識改革やプロモーションも「CAMP×US」のメンバーが中心に行い、KSC で年間消費される約 27 万本のペットボトル(2018 年度実績)の削減を目指す。(SDGs における 17 のゴールのうち、同取り組みに該当するもの:④質の高い教育をみんなに、⑪住み続けられるまちづくりを、⑫つくる責任 つかう責任、⑬気候変動に具体的な対策を、⑭海の豊かさを守ろう、⑰パートナーシップで目標を達成しよう)</p>				

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	「Camping Campus」を活用したプログラム数	新たに想像する学びの場「Camping Campus」を活用したプログラムの実施回数。
指標2	「Camping Campus」を活用したプログラムに参加した人数	新たに想像する学びの場「Camping Campus」を活用したプログラムに参加した人数。
指標3	オリジナル・マイボトル所持率	生協で委託販売した数値を基に、KSCの学生数に対する所持率を算出。
指標4	ペットボトル排出量の削減	2018年度のKSCでのペットボトル排出量27万本を100とし、削減量を算出する。

目標1<指標1> 「Camping Campus」を活用したプログラム数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	3回	春学期:3回 秋学期:3回	春学期:5回 秋学期:5回	春学期:10回 秋学期:10回		
実績	3回 (焚火 Talk@KSC)					

目標2<指標2> 「Camping Campus」を活用したプログラムに参加した人数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	のべ 60 人	のべ 120 人	のべ 250 人	のべ 500 人		
実績	54人					

目標3<指標3> マイボトル所持率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	—	50%	60%	70%		
実績	—	41%				

目標4<指標4> ペットボトル排出量の削減

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	—	95% (13,500 本 削減)	90% (27,000 本 削減)	85% (40,500 本 削減)		
実績	—					

2. ロードマップ

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
「Camping Campus」構想の推進	策定段階	プログラム開発	プログラム開発・展開 ノウハウ蓄積 支援学生育成	プログラム開発・展開 ノウハウ蓄積 支援学生育成	プログラム展開、改良・ 支援学生育成	プログラム展開、改良・ 支援学生育成
	2022年3月 末段階	プログラム開発	—	—		
		2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	—
	策定段階	プログラム展開、改良・ 支援学生育成	プログラム展開、改良・ 支援学生育成	プログラム展開、改良・ 支援学生育成	プログラム展開、改良・ 支援学生育成	
	2022年3月 末段階					
		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
マイボトルの導入、ペットボトルの削減	策定段階	・マイボトル開発 ・持参率向上策、プロモーション検討	マイボトル配布・ プロモーション実施等	マイボトル配布・ プロモーション実施等	マイボトル配布・ プロモーション実施等	マイボトル配布・ プロモーション実施等
	2022年3月 末段階	・マイボトル開発 ・持参率向上策、プロモーション検討	—	—		
		2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	—
	策定段階	マイボトル配布・ プロモーション実施等	マイボトル配布・ プロモーション実施等	マイボトル配布・ プロモーション実施等	マイボトル配布・ プロモーション実施等	
	2022年3月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	2020 年度 承認	2021 年度 承認	2022 年度 承認	2023 年度
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2020 年度 承認	2021 年度 承認	2022 年度 承認	2023 年度
非公開				
経費 単位:万円	2024 年度	2025 年度	2026 年度	左記以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2024 年度	2025 年度	2026 年度	左記以降
非公開				

4. 進捗状況・得られた成果

2020 年度	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、宿泊や飲食を伴う Camping Campus プログラムは実施できなかった。しかし、リモート授業が多く友達を作る機会が少ない1年生をターゲットに「焚火 Talk@KSC」を開催し、焚火を囲みながら学部や学年を超えた交流の場を作ることができた。また、2019 年度に組織した「CAMP×US」のメンバーとスノーピークによるマイボトル開発により、オリジナル・マイボトルを完成させ、2021 年 3 月に 4,000 本を受領した。ペットボトル削減の実現のため、マイボトルに無料で飲料を提供する「BiZCAFE」を誘致することで、産学連携による「ペットボトル削減エコシステム」を構築した。さらに、「CAMP×US」の学生活動をより KSC で特徴づけていくため、商標登録出願を行った。
2021 年度	4 月 1 日よりオリジナル・マイボトルを販売、4 月 8 日より BiZCAFE をオープンした。新入生に対してはオリエンテーションの中で、「CAMP×US」が作成したプロモーションビデオを上映し、マイボトルおよび SDGs 推進に関するプレゼンを行った。これらの取り組みによりオリジナル・マイボトルは 8 月 23 日現在、2,418 本販売しており、KSC 全学生の 41%、1 年生の 71% が所持している。BiZCAFE では、7 月末までに約 4,300 杯の飲料を提供しており、ペットボトルの排出削減への効果が期待できる。また、7 月に「CAMP×US」の商標登録がなされた。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	
2025 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2020 年度	Camping Campus に関して、学内外からの関心も高く、コロナにも配慮しながらも早期に具体的なコンテンツを取りまとめ展開し、情報を発信していくことが必要である。 また、SDGs の推進におけるマイボトルの開発・導入において、KSC 全体への普及・利用促進のためには、導入初期にいかにも多くの学生に所持させられるかが大きな課題である。
2021 年度	Camping Campus に関して、コロナ禍で制約が大きいから、学生の関心も高いことから可能なプログラムを検討し実施していきたい。また、スノーピークとも定型的なプログラム開発をすることで合意できており早急に具体化を進めていく。 オリジナル・マイボトルに関して、オンライン授業との併用により登校者数が平常時より少ないこともあり、1 年生の所持率は約 7 割と高いが、学生全体では約 4 割に留まっている。無料飲料を提供している BiZCAFE は、その提供の際に使用するアプリを活用し、学生と企業とのマッチングの場を提供することをビジネスとしており、短期的にはキャリアに対して意識を持ち始める 2・3 年生へのアプローチを期待している。BiZCAFE との良好な関係維持、店舗運用のためにも、在学生により多くオリジナル・マイボトルを購入してもらうことが課題である。秋学期には、BiZCAFE と連携してオリジナル・マイボトル普及のプロモーションを実施し、さらに所持率を高めていく予定である。2022 年度新入生のマイボトルとして、1 本あたりの単価も考慮し 1,350 個を 2021 年度中に発注、生産する予定である。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	
2025 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2020年度	スノーピークとの連携に基づく新たな教育的価値創造事業の実施を認めます。 また、SDGs 推進のためのマイボトル製作費用および販売委託手数料を認めます。
2021年度	スノーピークとの連携に基づく新たな教育的価値創造事業の継続実施を認めます。 マイボトル製作費用および販売委託料を認めます。 なお、スノーピークのギア、運営費、運営スタッフ委託費については、詳細未定のため保留とします。
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・スノーピークとの協定を 6 月に結び、大学とキャンプ会社との連携という新しい枠組みを構築し、社会に発表した。 ・学生団体の活動としてもマイボトル事業に取り組んでいる。 ・共同研究に関しても、担当教員と企業との打合せを開始するよう準備中である。 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とも連動したペットボトル削減活動の推進 ・企業と学生が交流・イノベーションする場としての BIZCAFE(仮称)の活用方策の検討

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃止 	